



カーフィルム

## フロント施行の啓発 新たな段階へ



諸外国に比べて普及が伸び悩む日本のカーフィルム市場。近年では、プライバシーガラス・UVカットガラスの一段の高機能化や、先進安全装置(前方カメラ)の普及など、市場環境として向かい風も吹き始めている。一方で、メーカーや施工店が訴求し続けてきた「機能的なフィルム」の認知は着実に広がりつつある。



目隠し、遮熱、色付きといった固定観念も根強い。フィルムに対する正しい知識を広め、機能を追求される市場に転換していききたい」と話す。

リンテックがミドルグレードの追加と合わせて発売した測定器。可視光線透過率のほか紫外線や近赤外線カット率も測定可能。

「リンテックは5月、「スタンダード」「プレミアム」の2シリーズだった製品ラインアップを刷新。新たに「ミディアムシリーズ」を設けた。それに伴い、エンドユーザー向けのフィルム特設サイトも開設(関連記事2面)。同社のウインドーフィルム営業部・甘田利明部長は現在の国内市場について、「12年のウインドーフィルム統一以降、透明のIR-90HDを筆頭に遮熱性能による快適性向上や紫外線カット効果などを訴求してきた。近年ではドライバーから品番を指定しただけで施工するケースも増えてきている。ただ、フィルムの施工比率が高い欧米や東南アジアと比べると、日本ではまだカーフィルム

**DUKS**  
ダックス株式会社

私たちはガラス交換時に求められる「接着性能の剛性基準」など安全性に配慮しお客様に信頼を提供いたします。

「業界団体が推進する デイリーラーチャネル」として、国内でのフィルム普及を阻んできたのは、エンドユーザーの認知不足だけではない。法令を順守した円滑な車検時のフィルム取り扱いを推進してきた日本自動車用フィルム施工協会(JCAA)では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期していた2020年度総会を6月24日、オンラインで開催。今年度の事業方針として、各地の運輸支局などで使用されている計測器(P-TI50/51)では計測値が下振れするケースがあるという。他方、同協会ではP-TI50/51以外の簡易測定器での計測結果でも車検上有効であることを国土交通省との協議で確認している。

雨を使った「雨の日洗浄具」として開発したソーラーパネルの簡易洗浄具

### JOYBOND ソーラーロールクリーン

雨の日洗浄用具!

特許取得  
特許 No.5914239

現在、地下水や水道水のミネラル成分の「結晶の蓄積による汚染」が、さらに汚染を招く結果となっており、これらによる発電能力の低下が問題となっています。それらの問題を解決するために、洗浄事業に50年携わってきた経験を活かして「ロールクリーナー」が開発されました。

間違いだらけの洗浄方法をしていませんか?  
パネル洗浄に地下水や水道水を使うと、水に含まれるミネラルが結晶化しパネル面に固着します。この結晶化された部分を取り除くには研磨機や研磨剤を使用して取り除かなくてはならず費用もかかります。

一番安全な洗浄水は洗剤も不要な「雨水」  
雨水は結晶と成るミネラルを含まない蒸留水なので、乾燥しても汚れとして付着しません。

このアイデアが「特許」なのです!!

洗浄の原理  
← スポンジローラーの回転方向  
→ スポンジローラーに掛る力の方向  
← 洗浄対象物に掛る力の方向

移動の方向 B  
移動の方向 A

カーフィルム特集

カーユーザーの間で人気爆発の「ゴーストフィルム」  
「フィルムがクルマいじりの主役に」  
ブレインテック

近年、じわりと広がりつつある鮮やかに発色する多層フィルム。二層の高さは耳にしつつも、施工店にとって気になるのは規制やコンプライアンス。製品のみならずショップによる正しい施工が伸び悩むフィルム市場打開の一助となりそう。



鮮やかな発色が目をひくゴーストフィルム。写真のPR99は、日本仕様に製作した新作

特定の発色が強いタイプも続々と販売、開発が進んでいる。

宮地代表はその人気ぶりについて、「可視光線透過率の罰則規制以降、話題となるのが少なくなったカーフィルムだが、現在はカスタム層などを中心として

も人気が高まっている。シートの衝撃でいえばマディコのレイバングリーン以来で、ゴーストの色味を軸にボディカスタムを組み立てる人がいるほど。長年フィルムに携わっているが、久しぶりにカスタムの主役にフィルムが躍り出た

「感覚」と話し、実際に販売面でも好調に推移している。

B品の偶発的な発色がルーツ?

ゴーストフィルムを含むこの発色系の多層フィルム(同社ではストラクチャーカラーフィルムと呼称)、実は人気の高まりは国内だけではなく、宮地代表によると、現在出回る同種のフィルムのルーツは、2016年頃に出現した大手フィルムメーカーの多層遮熱フィルムのB品。本来無色透明なはずの製品の偶発的な発色を目をつけたアジアのストリートシーンから現在のムーブメントにつながっているという。同社はこの潮流を受け、独自に発色、透過率を調整した「ゴースト」を開発。元製品のバリエーションが切れた18年1月から自社での販売をスタートした。現在、同社では



ゴーストシリーズはPET厚38μmと、他の国産メーカー品と比べると厚い。このほか各種スパッタ系やミラー系、PPFなど幅広くフィルムを取り揃える

アジヤや欧米でも販売しており、「OEM品も含めるとかなりのシェアを自社で有している(同)という。ちなみに同社は、元々は1998年創業のフィルム施工店。12年程前から輸入フィルムを扱い始め、現在ではゴーストのほか多様なスパッタ系、ミラー系などの豊富なフィルムのほか、PPFや施工ツールなども取り揃えている。

施工店への徹底した製品情報提供

一方で、カーフィルム業界ではこの発色系の多層フィルムに否定的な声も一部で挙がっている。目立つビジュアルが好まれてフロントへの施工を希望するユーザーも少なくないが、日本ではフロント3面に可視光線透過率70%以上の罰則規定が設けられている。その中で、明らかに規定を逸脱した施工車両両施工店もあるとして、法規制によつて市場減衰を経験したカーフィルム業界の一部からは、一層の規制強化、ひいては市場衰退への引き金となるのが危惧されている。

これに対し、真つ向から提言を唱えるのが宮地代表だ。「安全法令遵守は大前提として、カーオーナーに唯一無二の満足を提供でき

るのもゴースト。発色もそうだが、高い遮熱性能も有しており、実際に多くのゴースト施工車両で車検クリアの実績もある」と製品の魅力を説明する。

その上で、現状の同フィルムの施工を取り巻く環境に対し、「確かに一部の店では、透過率や測定に関する知識不足から『車検に通る』などと顧客に伝えてしまう店もあるようだ」として、同社では、ホームページ上でJIS数値分光光度計や簡易計測器による実測数値など細かな光学スペックを製品ごとに表記するなど、製品説明を徹底。「いまだに改正道路運送車両法以降、誤解していたり理解不足と思われる施工店も見受けられる。弊社でも今後は施工店の方々への情報共有を二層促進し、フィルム啓蒙に努めていきたい」と、健全なカーフィルムの普及に意欲を見せている。

法令遵守ショップこそ取り扱いを

施工店から見るゴースト

実際に規制を厳格に遵守する施工店でもゴーストの導入が広がっている。京都府のピーバックス(井上和也代表取締役社長、京都市右京区)は、業界団体役員なども務めながら可視光線透過率規制の遵守啓蒙を推進しているが、2019年9月にブレインテックの「ゴースト2」の取り扱いを開始。高まるエンドユーザーの熱量を着実に捉えている。

- ブレインテック GHOST(ゴースト)ラインナップ
- ▶ファンキーゴースト・プリズム99(PR99)
  - ▶サイレントゴーストII(AR88)
  - ▶サイレントゴースト・オーロラ85(AR85)
  - ▶ゼノンゴースト・オーロラ82(AR82)
  - ▶ゴーストネオ・オーロラ81(AR81)
  - ▶ゴースト・オーロラ80(AR80)
  - ▶ゴーストIIネオ(AR79)
  - ▶ゴーストII・オーロラ78(AR78)
  - ▶スライゴースト・オーロラ77(AR77)
  - ▶レイスブルー・オーロラ70(AR70)
  - ▶ナイトゴースト・オーロラスモーク30(AR30)



エンドユーザーでの人気の高まりを背景に、コンプライアンス遵守の厳格なショップでもゴーストの導入が進む



オンライン販売に特化しているのも同社の特徴。車種別カット済みフィルムの販売も請け負っている

顧客はますます違法な店に流れてしまう。法令遵守する店こそ、正しい知識に基づいて販売施工すること、エンドユーザーのニーズを満たすのが使命では」と持論を展開。業界団体を通じ、国交省や警察庁担当官にも高可視光な同種製品の合法性を確認しているという。

その上で、販売メーカーであるブレインテックの姿勢も評価。「法規制や光学特性なども含め、製品の品質背景を正確に情報提供してくれるメーカー」と一定の信頼を寄せている。



**BRAINTEC**<sup>®</sup>  
Window Films

<https://www.braintec.co.jp>

ブレインテック



公式オンラインストア

10000円以上で使える

1000円 off クーポンコード [864953]

# アフターコロナに向けて

外出自粛に新車・中古車問わず車販の低迷と、エンドユーザー・事業者請負の両面でディテリング業界にも影響をもたらしている新型コロナウイルスの流行。一方で、“除菌”や“オンライン化”への注目の高まりなど、生活者行動は変化しつつあり、早くもそれを商機に捉えたショップやサービスも台頭している。アフターコロナにおけるニューノーマル(常態化)をも予見させる事例を紹介する。

## 【除菌】

### メーカーも施工店も 新製品・情報飛び交う 感染対策

本紙前号でもお伝えした通り、車内除菌を中心に自動車業界でもコロナ感染拡大を契機とした新たなサービスが広がっている。自動車メーカーでは、6月12日にゼネラルモーターズジヤパンが自社顧客を対象とした車内除菌・抗菌消臭の「アフターサービ

ス「パーマセーフ」を新たにスタート。2種の除菌・抗菌剤を噴霧する特許を取得した手法を車



GMジャパンが新たに開始した除菌・抗菌サービス「パーマセーフ」。米国環境保護庁(EPA)の認可を取得している

内では施工し、抗菌効果の持続期間は約6カ月。米国での今春のローンチに続いて国内でもサービス提供に至った。

他方、ディテリング業界では、コーティング卸も手掛けるカーメイクアートプロが、感染拡大序盤の2月から、自社で元々取り扱っていた除菌消臭剤「シユフレクティック」とその噴霧に最適な「ニューテック」のトルネダーをセットで事業者向けに販売。自社入庫車両への施工サービスも実施している。さらに6月には、新たに同除菌剤にも対応した超音波式ミニ加湿器(車載対応)の取り扱いも開始している。

また、東京のカーポリッシュオートソリテイでは、こちらも自社が総輸入代理店を務めるコーティングブランド「ティーヴォ(TEVO)」の除菌抗菌剤「ベリック」を販売。エンドユーザーや事業者への販売のほか市や県といった自治体への無償提供も行っており、横山代表は「車内や家庭内のコー

ティングと違って活用してもらえれば」と語る。

こうした感染対策の各種サービスが台頭する中で注意が必要なのが、効果の表記と製品の取り扱いだ。新型コロナウイルスに対する消毒方法の有効性の検証が進められている中、消費者庁は3月に続き6月にも新型コロナウイルスに対する予防効果を標榜する商品などへの改善要請を公表。また、アルコールに代わって注目を集める次亜塩素酸水については、経済産業省と製品評価技術基盤機構(NITE)でその有効性の検証が継続されている(6月24日現在)が、中間発表を受けて文部科学省が児童生徒がいる空間での噴霧を行わないよう教育委員会に求めるなど、新たな議論を巻き起こしている。未曾有の事態で行政、製造元、販売元、ユーザー間で情報が錯綜する中、対象製品を取り扱う事業者においては細心の注意が求められる。



マレーシアのコーティングブランド「ティーヴォ」が提供する除菌抗菌剤



カーメイクアートプロでは、除菌剤に加え、除菌剤対応のミニ加湿器の取り扱いを開始

## 【既存顧客フォロー】 オンライン動画を通じて メンテナンスビジネス啓蒙 ソフト99コーポレーション

ソフト99コーポレーションは5月21日、コーティング剤「リアルガラスコート」の新発売に合わせ、製品や施工技術などの情報を動画で配信する新サービス「G・ZOX(ジーゾックス) eラーニングシステム」を開発した。リアルガラスコートは、同社の施工店向けコーティングブランド「G・ZOX」の主力製品で、14年ぶりの刷新。撥水性に優れる「クラスR」、疎水性が特徴の「クラスH」、深い艶光沢で同製品最上位グレードとなる「クラスM」の3タイプ構成で、G・ZOXの旗艦製品「ハイモス コート」に続いて導入にあたる。講習会は設定されていないが、新たに施工証明書の電子化システムに対応した。

eラーニングシステムは、時間や場所の制約を受けず、いつでもどこからでも新製品情報を学べる新たなITサービス。製品技術情報はもちろん、施工方法や電子施工証明書の発行方法についても動画コンテンツを用いて解説。動画以外にダウンロードできる資料も用意

されており、施工店は同社の施工店サポート制度「G・ZOXパートナーズプログラム」へ加盟することで同システムを利用できる。

さらに、同システムを通じて同社が提案するのが、新たな収益を生み出すメンテナンスビジネスだ。電子施工証明書によって顧客の再来店を促進し、メンテナンスサービスの増加を推進。加えて、そのメニューとともに作業効率性を重視したメンテナンス剤を開発することで、定期メンテナンスが新車コーティング施工に頼らないビジネスの柱となり得ることを提唱する。国宗建 広報部長は、「新車販売は新型コロナウイルスの影響で厳しくなっているが、国内では長期的に見てもいずれ減少していくことは避けられない。新車施工のコーティングに依存しない新たな収益源として、施工後の定期メンテナンスを今こそ見つけ直す機会であり、そのサポートを図っていききたい」として、継続的なメンテナンスの啓蒙に意欲を示している。



PC、スマホそれぞれに対応した、動画による教育プログラム。製品・施工・顧客アプローチ含めた定期メンテナンスも提案している

# THIS IS REAL

“本物”だけの性能を愛車に。

研究開発スタッフの限りなく高い理想と試行錯誤が生み出す最先端ケミカル技術。  
微塵の妥協も許さないプロフェッショナルのプライドと膨大な経験が生み出す施工技術。  
ふたつの技術で極限まで進化した、“本物”の名に相応しい衝撃的性能を愛車に。

|                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| <p>リアルガラスコート classM</p> | <p>シリーズ最高峰のツヤ・光沢</p> |
| <p>リアルガラスコート classR</p> | <p>衝撃的な撥水力</p>       |
| <p>リアルガラスコート classH</p> | <p>親水を越えた水キレ性能</p>   |

Real Glass Coat

G・ZOXパートナープログラム加盟店を募集しております。詳しくは06-6942-2855まで

